

ところ会 12 月行事案内

平成 27 年度 第 12 回テーマ：

紅葉の高輪を歩く（泉岳寺・高輪プリンスホテル等）

ちょっぴり豪華に高輪プリンスホテルで昼食です。

記

■日 時：平成 27 年 12 月 4 日（金）8 時 55 分集合

■集合場所：所沢駅池袋行ホーム 中央階段下

■見学場所及び時間：コース全長約 6.5km

所沢駅(8:58)・・・練馬、飯田橋経由・・・白金高輪駅(10:12)

⇒旧細川邸のシイ⇒大石良雄外十六人忠烈の跡⇒高輪大木戸跡

⇒泉岳寺⇒東禅寺⇒昼食(高輪プリンスホテル 12:20～)

⇒ホテル内日本庭園散策⇒都営浅草線：高輪台駅・・・大門駅

⇒増上寺・徳川家墓所⇒芝東照宮・丸山古墳・伊能忠敬測地遺功表

⇒大江戸線：赤羽橋駅

・・・練馬経由・所沢/秋津（到着予定時間 17:30 前後）

■昼食 <高輪プリンスホテル>（12:20～13:30）

ちょっと贅沢に高輪プリンスホテルでランチと紅葉の日本庭園散策を

・シェフのおすすめ料理:2,530 円(税・サービス料込)

メイン(肉または魚)、パン、サラダ、コーヒー/紅茶/ハーブティー、デザート

・生ビール S:660 円(300ml)、M:957 円(420ml)

なお、ホテルのメニューの料金は税込み表示ですがサービス料が 10%つきますのでご注意を。

■忘年会（自由参加）：秋津「さくら水産」2,000 円～3,000 円位で

■徳川家墓所 拝観料金：500 円（拝観は自由とします）

■交通費（所沢から）：約 1,310 円

■散策先簡単ガイド

<旧細川邸のシイ>

旧熊本藩細川家下屋敷に植えられていたスダジイです。幹には空洞があり、黒くなっているのですが、落雷があったのではないのでしょうか。

都天然記念物 幹周り：8.1m、
樹齢300年以上、23区内では一番のスダジイ



旧細川邸のシイ

<旧高松宮邸>

旧細川家の藩邸であった場所、広大な敷地は宣仁親王の意によって戦後縮小され、払い下げられた場所には港区立高松中学校や都営高輪アパートなどが建てられた。現在、宮邸敷地および邸宅は「高輪皇族邸」として無人のまま宮内庁が管理している。

<大石良雄外十六人忠烈の跡>

かつての肥後熊本藩細川家の江戸下屋敷があった場所で、「大石内蔵助（良雄）、吉田忠左衛門、原惣右衛門、片岡源五右衛、門間瀬久大夫、小野寺十内、間喜兵衛、礒貝十郎左衛門、堀部弥兵衛、近松勘六、富森助右衛門、潮田又之丞、早水藤左衛門、赤埴源蔵、奥田孫太夫、矢田五郎右衛門、大石瀨左衛門」の十七名が切腹した。



大石良雄外十六人忠烈の跡

大石良雄外十六名は、浅野家の菩提寺泉岳寺に葬られている。



他の義士は、伊予松山藩松平家（現イタリア大使館）、長府藩毛利家（現六本木ヒルズ：毛利庭園がありますね）、岡崎藩水野家（JR三田駅すぐそば）に預けられました。その中で細川家が特に義士に対して丁重であったということでここに碑が建てられたのでしょうか。

<伊皿子(いさらご)坂>

明国人「伊皿子」(いんべいす)が住んでいたと伝えられるが、ほかに大仏(おさらぎ)のなまりとも、いいさらふ〔意味不明〕の変化ともいう。

<高輪大木戸跡>

高輪大木戸は、江戸時代中期の宝永7年(1710)に芝口門が建てられたのが起源で、享保9年(1724)現在地に移された



(諸説あり)。江戸の南の入口として道路幅約6間(約10m)の旧東海道の両側に石垣を築き夜は閉めて通行止めとし、治安の維持と交通規制の機能を持っていた。別紙「江戸切絵図」を見るとすぐそばが海だった事が分かりますね。

天保2年(1831)には札の辻から高札場も移された(江戸6大高札場の一つ)。京登り、東下り、伊勢参りの旅人の送迎もここで行われ、付近には茶屋などもあって、当時は品川宿にいたる海岸の景色もよく、月見の名所でした。江戸時代後期には木戸の設備は廃止され現在は石垣のみが残っている。四谷大木戸はすでにその痕跡をとどめていないので、貴重な史跡です。

<泉岳寺>

浅野長矩墓および赤穂義士墓

元禄14年(1701年)3月14日、江戸城中で吉良上野介義央(よしひさ)に対し刃傷沙汰に及び、即日切腹となった赤穂藩主浅野長矩(内匠頭)、及び元禄15年12月14日、江戸本所の吉良屋敷に押し入って吉良の首級を上げ、翌年2月4日に切腹となったいわゆる赤穂浪士(泉岳寺では「赤穂義士」と呼んでいる)の墓がある。



赤穂浪士は一般に「四十七士」と呼ばれるが、泉岳寺の赤穂義士墓地には討入り以前に自害した萱野重実(三平)の供養墓を含め48基の墓塔がある。48基のうち、この萱野三平と、遺骸を遺族が引き取ったため泉岳寺には埋葬されていない間光風(新六)、そして討入り

に参加した浪士の中で唯一人切腹をまぬがれた寺坂信行（吉右衛門）の墓塔は、遺骸の埋葬を伴わない供養塔である。なお寺坂以外の浪士の戒名はすべて最初の文字が「刃」となっている。

ここで、ちょっと一休み。

<東禅寺>

幕末の安政年間（1855～60）以降、当寺は西洋人用の宿舎に割り当てられた。安政6年（1859）には日本初のイギリス公使館が当寺に置かれ、公使ラザフォード・オールコックが駐在した。



文久元年（1861）5月、オールコックは長崎から江戸へ向かう際、条約で定める国内旅行権を主張して陸路で江戸へ旅し、イギリス公使館が置かれていた東禅寺に入った。これに対し、尊攘派の志士らは「夷狄に神州日本が穢された」と憤激した。水戸藩脱藩の有賀半弥ら14名は東禅寺に侵入し、オールコック公使らを襲撃した。公使館の警備に就いていた旗本や藩士が応戦し、双方が死傷者を出した（警備兵2名、浪士側3名が死亡）。オールコックは危うく難を逃れたが、書記官と長崎駐在領事の2名が負傷した。両名はその後帰国している。……第1次東禅寺事件

事件後、オールコックは江戸幕府に対し嚴重に抗議し、イギリス水兵の公使館駐屯の承認、日本側警備兵の増強、賠償金1万ドルの支払いという条件で事件は解決をみた。翌文久2年（1862年）、東禅寺警備兵の一人、松本藩士・伊藤軍兵衛は、東禅寺警備により自藩が多くの出費を強いられていることや、外国人のために日本人同士が殺しあうことを憂い、公使を殺害し自藩の東禅寺警備の任を解こうと考えた。伊藤は夜中に寝室に侵入しようとしたが、警備のイギリス兵2人に発見され戦闘になり、彼らを倒したものの自分も負傷し、番小屋に逃れて自刃した。

幕府はイギリスとの間で賠償金の支払い交渉を行ったがまとまらず、紛糾するうちに生麦事件が発生した。幕府は、生麦事件の賠償金とともに1万ポンドを支払うこととなりました。

2010年2月、境内が国の史跡に指定された。

<高輪プリンスホテル> (12:20~13:50)

ちょっと贅沢に高輪プリンスホテルでランチと紅葉の日本庭園散策を
シェフのおすすめ料理:2,530円(税・サービス料込)

本日のメイン(肉または魚)、パン、サラダ、コーヒー/紅茶/ハーブティー、デザート
生ビール S(300ml):660円、M(420ml):957円

なお、ホテルのメニューは税込み表示ですが、その他にサービス料が10%つきますのでご注意ください。

日本庭園のご案内

高輪の日本庭園は1971年旧高輪プリンスホテルの新築にともない造られたもので、作庭者は皇居新宮殿なども手がけた故 楠岡悌二氏によるものです。

約20,000㎡におよぶ庭園内には、四季折々の表情を見せる花木や池などの自然の他、歴史的・美術的にも由緒ある数多くの史跡が点在しています。都心とは思えない美しい自然にまつまれた高輪の日本庭園散策をごゆっくりとお楽しみください。



①**貴賓館**:明治天皇の第六皇女 常宮昌子内親王と竹田宮恒久王のご成婚の2年後、1910年(明治43年)に竹田宮邸洋館として竣工。



②**茶寮 惠庵**:1985年(昭和60年)建立。
故 村野藤吾の晩年の作。

③**観音堂**:大和の国(現在の奈良県生駒市)長弓寺にあった三重塔の一部。1954年(昭和29年)に移築。安置されている「十一面観音踏下像」は室町時代(15世紀前後)の作。





- ④鐘楼:1656年(明暦2)建立。
1959年(昭和34年)に奈良市の念仏寺より移築。

- ⑤山門・青銅灯籠:山門の作者・歴史は不明。
青銅灯籠は江戸時代の徳川将軍家の霊の地(現 東京プリンスホテル)にあったもの。



- ⑥狛犬:中国の乾隆時代(18世紀 清時代)のもの。
1990年(平成2年)に品川プリンスホテルから移設。
玉と遊ぶ獅子が雄、子をあやしているのが雌。
残念ながら近くには行きません。

ここから高輪台駅に行き都営地下鉄浅草線で大門駅→増上寺 に行きます。

<増上寺>

正式名称は「三縁山広度院 増上寺」と言い、関東での正統念仏道場として、明徳4年(1393) 西誉聖聰(ゆうよししょうそう)上人により当初、江戸貝塚(千代田区紀尾井町)に創建されました。徳川家康公の入府・江戸城拡張により、慶長3年(1598)現在地に移転しました。江戸時代に入り、徳川家の菩提寺、浄土宗の学制の記録所として常時3000名の僧侶が修学に励む寺院となる。当時の木造伽藍は、勇壯を誇る荘厳でした。徳川家墓所を見学すると「大日本東京芝三縁山増上寺境内全図」がもらえます。これを見ると往時の様子が分かります。

明治時代に行われた廃仏毀釈、大火による本堂の焼失があり、大正期にその復興も試みましたが、まもなく一部を残し昭和の戦火によって焼失。

戦後の復興に伴い、昭和46年(1971)より本格的な復旧が始まり、同49年の大殿、平成元年(1989)に開山堂、同13年に光摂殿、同21年圓光太子堂、同22年に新安国殿が建立され、現在も宗教、文化活動の拠点となっている。



三解脱門:増上寺の表の顔として姿を見せる門で、元和8年(1622)に建立された。三つの煩惱「貪欲(とんよく・むさぼり)・瞋恚(しんに・いかり)・愚痴(ぐち・おろかさ)」の三悪を解脱する悟りの境地を表しています。

徳川家墓所：拝観料：500 円（拝観は自由参加）

戦前、御霊屋(おたまや)と呼ばれ。厳肅かつ壮麗な霊廟が増上寺大殿の南北に建ち並んでいました。しかし、昭和 20 年(1945)の空襲で大半が焼失し、その後現在地に改葬されました。2 代秀忠（台徳（たいとく）院⑨）、6 代家宣（文昭院⑩）、7 代家継（有章院⑪）、9 代家重（惇信院⑫）、12 代家慶（慎徳院）、14 代家茂（昭徳院）の 7 人の徳川将軍と皇女和宮さまをはじめ、各公の正室、側室、子女多数が埋葬されている。



かつての霊廟跡に東京オリンピックに合わせて東京プリンスホテルを作り、その時に多くの灯籠が所沢などの寺社に運ばれました。丸付き数字は所沢市にある灯籠の数です。この他、市内には桂昌院等の 42 基の灯籠があります。なお、ウィキペディアによれば「プリンスという社名は、敗戦に伴い行われた皇籍離脱後、占領軍によって没収された旧皇族の土地が日本政府に返還された後、安価で購入し、その土地にホテルを開業した事に由来している」そうです。

<台徳院霊廟惣門> 国指定重要文化財

現在の増上寺の南側（現芝公園）には台徳院（秀忠）の霊廟がありましたが、空襲により殆どが消失しました。この惣門はそのうちのひとつで 45m 東方に曳家をされ現在の位置に移されました。その他に焼け残った勅額門、御成門、丁子門の 3 棟は所沢の狭山山不動寺に移されています。昔の増上寺については、徳川家墓所でくれる「大日本東京芝三縁山増上寺境内全図」を参照して下さい。



勅額門



御成門



丁子門

＜芝東照宮＞ 寛永 18 年(1641)創建、祭神は徳川家康公。芝東照宮は、以前は安国殿と呼ばれていたが、明治の神仏分離により増上寺と切り離され東照宮となりました。徳川家康は元和 2 年（1616）に 75 歳で亡くなったので来年は亡くなって丁度 400 年になります。社殿（戦災から再建）には都有形文化財の徳川家康坐像が安置されています。

東照宮再建の時に三代将軍家光が植えたと伝わる都の天然記念物の大イチョウがあります。幹周り 6.5m。家光が苗木を植えたとすれば樹齢 360 年程になります。

＜丸山古墳・丸山貝塚＞ 5 世紀後半の築造と推定される都内最大級の前方後円墳で全長 106m、後円部径 64m、前方部幅 40m、標高 16m です（マップに大体の前方後円の形を入れました）。古墳の麓には縄文後期の「丸山貝塚」、古墳上には、増上寺の裏鬼門に位置し、山内鎮守の重要な地を占める円山稲荷や伊能忠敬測地遺功表があります。

＜伊能忠敬測地遺功表＞ 伊能忠敬の測定の起点となったのが、芝公園近くの高輪の大木戸であった関係で、明治 22 年(1889)東京地学協会が日本地図を作った測定の先駆者・伊能忠敬の功績を顕彰して建てたもの。当時の物は戦災で失われたため、現在の遺功表は昭和 40 年(1965)に再建されたもので丸山古墳の頂上にある。



＜大野伴睦句碑＞ 虎の像があります、なんでこんな所に虎？

大野伴睦の句碑でした。

「鐘がなる 春のあけぼの、増上寺」

大野伴睦は虎の骨董品蒐集が趣味だからでしょうか、池上本門寺にある墓にも虎の石像があります。



帰路：大江戸線赤羽橋駅から練馬経由所沢に戻ります。所沢駅 17:30 頃帰着を予定しています。

有志はその前の秋津で降りて、さくら水産で忘年会をしましょう。